

# 備える 3.11から

# 第195回 冬の災害時の寒さ対策

災害時の冬の寒さに家庭や個人として備える。名古屋市中津波対策センターの大橋玲子センター長は「エプソンなどの暖房器具が止まってしまうらと、体温を保持するための準備をしておくことが重要」と話す。

## 多めの着替えやこころ重宝

非常袋の点検を  
 温を逃さないことがポイント。津波や洪水、雨にぬれた服は速に乾かす。足元も暖かい靴を履く。雨にぬれた靴は速に乾かす。足元も暖かい靴を履く。雨にぬれた靴は速に乾かす。足元も暖かい靴を履く。



段ボールなどが当時のまま残る避難所。避難所長は「寒さが心配だった」と語る元校長の井上剛さん。宮城県山元町の震災避難所中浜小学で撮影。

冬に災害が起きれば、寒さが命が脅かされる。2011年3月の東日本大震災では低体温症で人々が亡くなった。1995年1月の阪神大震災でも被災者は避難先で厳

しい寒さにさらされた。津波や建物の倒壊から「逃げた後のリスク」である寒さで、どう向き合うか。 (横井武昭)

# 避難後 命守る 暖

## 宮城 児童ら屋根裏で一夜

海からわずか四日、寒風が肌を刺す。宮城県山元町の震災避難所中浜小学。東日本大震災の津波は、校舎の二階天井付近まで押し寄せた。児童や住民ら九十人が屋根上の「屋根裏倉庫」に逃げ込んだ。「寒さが大敵だった」。この避難所が閉鎖された後、避難所を離れる際の校長井上剛さん(右)が振り返る。

## 床一面段ボール

## 備蓄毛布に歓声

だが、屋根にはない。卒業生のタイムカプセルとして使った衣装ケースと運動会のたしで用意した。冷やれば、トイレも必要になる。

なる倉庫で見つけ、男女別の仮設トイレにした。後半、職員らは体育館一階に非常用毛布を備蓄していたことを思い出した。懐中電灯を手に取りに行くと、真空中に入った五十枚の毛布が津波に流され残っていた。「よかった。屋根裏で寒さを感じた。寒さは止まらなかつたが、何とか一晩越し。翌朝へで全員が救助された。児童の防寒も運よくなかった。児童の防寒も運よくなかった。児童の防寒も運よくなかった。」



段ボールなどが当時のまま残る避難所。避難所長は「寒さが心配だった」と語る元校長の井上剛さん。宮城県山元町の震災避難所中浜小学で撮影。

## 床一面段ボール

だが、屋根にはない。卒業生のタイムカプセルとして使った衣装ケースと運動会のたしで用意した。冷やれば、トイレも必要になる。

## 繰り返す襲来 住民の教訓



志宝神社で津波の歴史を語る神戶の民俗館員。住民らも津波の歴史を語り、防災意識を高めている。

伊勢湾の津波と大津 (三重県伊勢市) 伊勢湾に面する三重県伊勢市大津町。この地区は過去に何度も津波に襲われてきた。津波は海面上を伝って来た。津波は海面上を伝って来た。津波は海面上を伝って来た。



大津町津波避難施設(タワー) 伊勢市大津町 志宝神社 大津町振興会 灯明台跡



「灯明台跡」の説明板を前に、大津町の歴史やメカニズムを説明する鎌谷教授